



あらゆる福島の内側へー



福島映像祭 2022

会場: ポレポレ東中野 / Space&Cafeポレポレ坐 主催: OurPlanet-TV 共催: ポレポレ東中野

2022年9月17日(土) ▶ 9月23日(金・祝)

<http://fukushimavoice.net/fes/fes2022>



映画上映作品

会場：ポレポレ東中野

※映画の上映はいずれも16:10〜となります。舞台挨拶は裏面タイムテーブルをご確認ください。



© 福島中央テレビ

1F リアル あの日、原発の傍らにいた人たち

(2021年/55分/日本/Blu-ray) ※参考上映(上映料無料/要トークイベント料金)

ディレクター: 岳野高弘 / プロデューサー: 木村良司

制作・作品提供: 福島中央テレビ

事故発生から事故直後の福島第一原発の内部では、誰がどんなことをしていたのか。地元テレビ局の丹念な取材により浮かび上がる壮絶な状況を、実際に立ち会った作業員の人々の証言で辿る緊迫のドキュメント。岳野高弘ディレクター、松川修三報道局長によるトークイベントと参考上映で、あの日のイチエフを検証する。聞き手はジャーナリストの下村健一さん。

上映日：9/17(土)

Son of Fukushima

(2020年/55分/アメリカ・フランス/DCP)

監督: ペス・バラウィック・ベス・マーフィー / アニメーション: クリスチャン・シュレーファー

作品提供: Journeyman Pictures

汚染された大地の多くの住人は、代々その土地を守ってきた人々だった。世界最大規模の放射能汚染除去作業を背景に、原発事故という想像を絶する事態を生き抜く家族の姿を5年間追いつける。2人の映像作家は、彼ら/彼女ら福島の子どもたち”に家族の歴史とあの日起こったこと、これからの話を聞く。人々の口話はアニメーションになり、失われた暮らしが蘇る。

※音声の大部分は日本語ですが、一部の英語のスーパーに日本語字幕が付いていない箇所がございます。

上映日：9/18(日)



あかい線に分けられたクラス

(2021年/21分/日本/Blu-ray)

監督・作品提供: 藤井光

※「福島形相日記」との二本立て上映

『PROJECT FUKUSHIMA!』『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』の監督・藤井光による新作。キング牧師の暗殺後にアメリカで行われた伝説の授業を参照し、福島の隣県、茨城県水戸市の小学校に通う児童を、教師役が「あかい線」の内側(ゾーン=圏内)に住んでいるかどうかで、クラスを2つのグループに分離し、不合理的な差別を構造化させる。

上映日：9/19(月・祝)

福島形相日記【未完成版】

(2022年/50分*予定/日本/Blu-ray)

監督・作品提供: 鈴木光

※「あかい線に分けられたクラス」との二本立て上映

2019年からいわき、小高、楡葉、飯館、相馬、南相馬、浪江など福島各地を訪れ撮影した記録。ほとんど人は映らず、ある混乱期を経た後いまだ流動的な「場」や「道」が映される。場所を人間の「形相(顔)」と捉えて、外部から来た視点で撮影することで、福島という土地自体のポートレートになっている。



上映日：9/19(月・祝)



ネアンデルタール人は核の夢を見るか ～“核のごみ”と科学と民主主義～

(2021年/74分/日本/Blu-ray)

ディレクター: 澤出梨江 / プロデューサー: 山崎裕侍

制作・作品提供: HBC北海道放送

放射性廃棄物最終処分場選定の候補地として文献調査が進む北海道寿都町と神恵内村。反対派と賛成派で町は二分された。町の誇りであった水産振興と、調査に応じれば貰える“文献調査交付金”。最終処分場の歴史から町長選挙までを描き、“核のごみ”が突きつけた地方振興と民主主義のありようについて考える決定版。

上映日：9/20(火)

まぼろしのひかり～原発と故郷の山～

(2021年/50分/日本/Blu-ray)

ディレクター: 湯本和寛・手塚孝典 / プロデューサー: 手塚孝典

制作・作品提供: SBC信越放送 ※「汐風の花園」との二本立て上映

長野市在住の増田哲将さんはかつて福島第一原発の副所長を務め、増設を進めた。その証言を手掛かりに、双葉郡の関係者らを訪ね、原発推進の知られざる実態に迫る。一方で、岩間政金さんは、戦後、長野県から葛尾村に入植したが、原発事故で故郷を追われ、仮設暮らしを強いられてきた。長野県の信越放送が制作した原子力政策に翻弄される人々を追った中編。

上映日：9/21(水)





ゆうな 汐風の花園～原発の町の片隅で～

(2019年/50分/日本/Blu-ray)

ディレクター:手塚孝典/プロデューサー:上條剛正

制作・作品提供:SBC信越放送 ※「まぼろしのひかり」との二本立て上映

自宅があった大熊町を離れ、白馬村で避難生活を送る木村紀夫さんは、震災で家族3人を亡くした。当時7歳の次女・汐風(ゆうな)さんは、行方不明のまま。木村さんは大熊町に通い捜索を続けていた。白馬村では18歳になった長女の舞雪(まゆ)さんとの二人暮らし。この春、舞雪さんが東京の専門学校へ進学したのを機に、木村さんは大熊町の近くで暮らすことにした。

上映日: 9/21(水)

飯館村 わたしの記録《特別追悼上映》

(2013年/68分/日本/Blu-ray)

監督・撮影:長谷川健一/編集・構成:細谷修平/協力:甲斐賢治

作品提供:OurPlanet-TV

飯館村で酪農家として、家族とともに暮らしてきた長谷川健一さんはビデオカメラを購入し、独学で撮影をはじめた。「当事者の目線で、自分が実際に味わっていることを伝え、後世に残さないとだめだ」。長谷川さんが伝える、「あの日」からの日々の記録。昨年10月に逝去された長谷川健一さんを偲び、追悼上映。

上映日: 9/22(木)



ふるさと 津島

(2020年/70分/日本/Blu-ray)

監督・撮影:野田雅也/整音:川久保直貴/音楽:三瓶ミサ子、今野正悦、今野悦男、紺野正雄、

赤宇木郷土芸術保存会/ナレーション:窪田たい子、窪田美智代

作品提供:ふるさと津島を映像で残す会

福島県浪江町津島は「帰還困難区域」に指定され、多くの家を取り壊しの選択をせざるを得ず、人も街並みも、二度と事故以前の姿に戻ることはなくなってしまった。阿武隈の山々に抱かれ、天然の松茸や赤松の産地として知られた美しい山里の姿を100年後の子孫たちへ残したい。空撮と住民の語りで記録した、ふるさと最後の姿。

上映日: 9/23(金・祝)

イベント 会場: Space&Cafe ポレポレ坐およびオンライン

9/18(日)
19:00 - 21:00
開場18:30

市民部門上映&トーク わたしが伝える福島

市民部門に寄せられたビデオの中から3作品を上映。それぞれの作品の制作者をゲストに作品に込めた想いを聞く。

ゲスト

制作者のみなさん

聞き手

島田隆一(映画監督)

[A] 会場チケット
定員50人[1,500円]

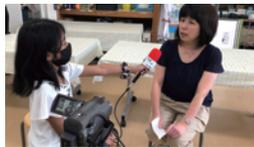


[B] 配信チケット
定員無制限[1,500円]



※[B]配信チケットはアーカイブ配信もご視聴いただけます。
アーカイブ配信期間:9/25(日)23:59まで/購入期限:9/25(日)19:00

《上映作品》



『ありがとう私たちの三春校』

—思い出を未来につなげよう—

制作:福島県富岡町、一般社団法人ヴォイス・オブ・フクシマ

(2022年/37分)

仮設の小中学校「三春校」が2022年3月末で閉校を迎えた。この学校の歴史や関わってきた人たちの思いを未来に伝えるため、小学5年生が映像制作に挑戦。



『富岡グラフィティ#1~#2』

制作:エンドウシユウ(2022年/8分)

東京で社会人生活を送っていた2人が結婚を機に地元福島へUターン。富岡町で暮らしていく決意をし、土地を探し、家を建てるまでの想いや経緯を映像で記録する。富岡町の「いま」を感じる、Vlog形式のシリーズ2作を上映。



『福島の桃農家、踏んだり蹴ったり』

それでも農家として生きる理由

制作:橋本幸歩(2022年/13分)

父親と祖父が運営する実家の果樹園を取材、跡継ぎ問題に加え、年々深刻化する異常気象の影響で苦悩は増すばかりだ。それに立ち向かう理由は、一人前の農家へと育ててくれた地域への思いだった。

9/23(金・祝)
19:00 - 21:00
開場18:30

上映&トーク 分断の溝を埋め、沈黙を破る ～チェルノブイリと福島～

ゲスト

宮田 輝美(関西テレビディレクター)

聞き手

白石草(OurPlanet-TV)

[A] 会場チケット
定員60人[1,500円]



福島映像祭2019で上映したドキュメンタリー『マリアとフクシマ』のディレクター宮田輝美さんがこの夏、再びフクシマにカメラを向けた。テーマは「もやい」。フクシマにこだわり、「もやい展」と銘打ったグループ展を続けているアーティストたちにカメラを向けた。『マリアとフクシマ』の主人公で、甲状腺疾患を患っているウクライナ出身のマリアさんも展覧会に招待を受け、再び来日する。地域のつながりを切り裂いた原発事故。表現によって、その溝を埋め、沈黙を打ち破ることができるのか。オンエアされたばかりの最新番組を参考上映し、宮田さんに話を聞く。

タイムテーブル

- **9/17** (土) 16:10 「1Fリアル」特別上映&トーク(地下劇場)★
-
- **9/18** (日) 16:10 「Son of Fukushima」(地下劇場)
19:00 イベント「わたしが伝える福島」(1Fポレポレ坐&オンライン)
-
- **9/19** (月・祝) 16:10 「あかい線に分けられたクラス」「福島形相日記」(地下劇場)★
-
- **9/20** (火) 16:10 「ネアンデルタール人は核の夢を見るか」(地下劇場)★
-
- **9/21** (水) 16:10 「まぼろしのひかり」「汐凧の花園」(地下劇場)★
-
- **9/22** (木) 16:10 【特別追悼上映】
「飯舘村 わたしの記録」(地下劇場)★
-
- **9/23** (金・祝) 16:10 「ふるさと津島」(地下劇場)★
19:00 イベント「分断の溝を埋め、沈黙を破る」(1Fポレポレ坐)

★=上映後、監督や関係者による舞台挨拶(登壇・オンライン中継)あり!
※登壇者は変更する場合がございます。予めご了承ください。

料金

映
画

一般1,500円/シニア1,200円/大・専・障害者1,000円/高校生以下700円

☆9/17(土)特別トークイベント(参考上映つき)のみ1,200円均一

■窓口・WEBともに上映日前日より販売開始 ■購入方法など詳細はポレポレ東中野HPをご覧ください

★リピーター割引(窓口購入のみ)

[福島映像祭2022]のチケット(映画でもイベントでも可)のご提示で1,100円

イベントは9/18(日)「わたしが伝える福島」は[A]会場参加と[B]オンライン参加のふたつの参加方法、
9/23(金・祝)「分断の溝を埋め、沈黙を破る」は[A]会場参加のみとなります。いずれも事前予約が必要です。ご予約方法は中面をご覧ください。

イ
ベ
ン
ト

[A] 会場チケット:定員50~60人【1,500円】※リピーター割引【1,100円】あり

お問合せ:03-3227-1445 (ポレポレ坐)

[B] 配信チケット:定員無制限【1,500円】※リピーター割引使用不可

お問合せ:03-3227-1445 (ポレポレ坐) ※[B] 配信チケットはアーカイブ配信も視聴いただけます。

会場

東京都中野区東中野 4-4-1ポレポレ坐ビル

映画上映:地下(映画館)

ポレポレ東中野 TEL 03-3371-0088
<https://pole2.co.jp/>

イベント:1F(カフェ)

Space&Cafe ポレポレ坐 TEL 03-3227-1445
<http://pole2za.com/>



JR東中野駅西口北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線A1出口より徒歩1分